

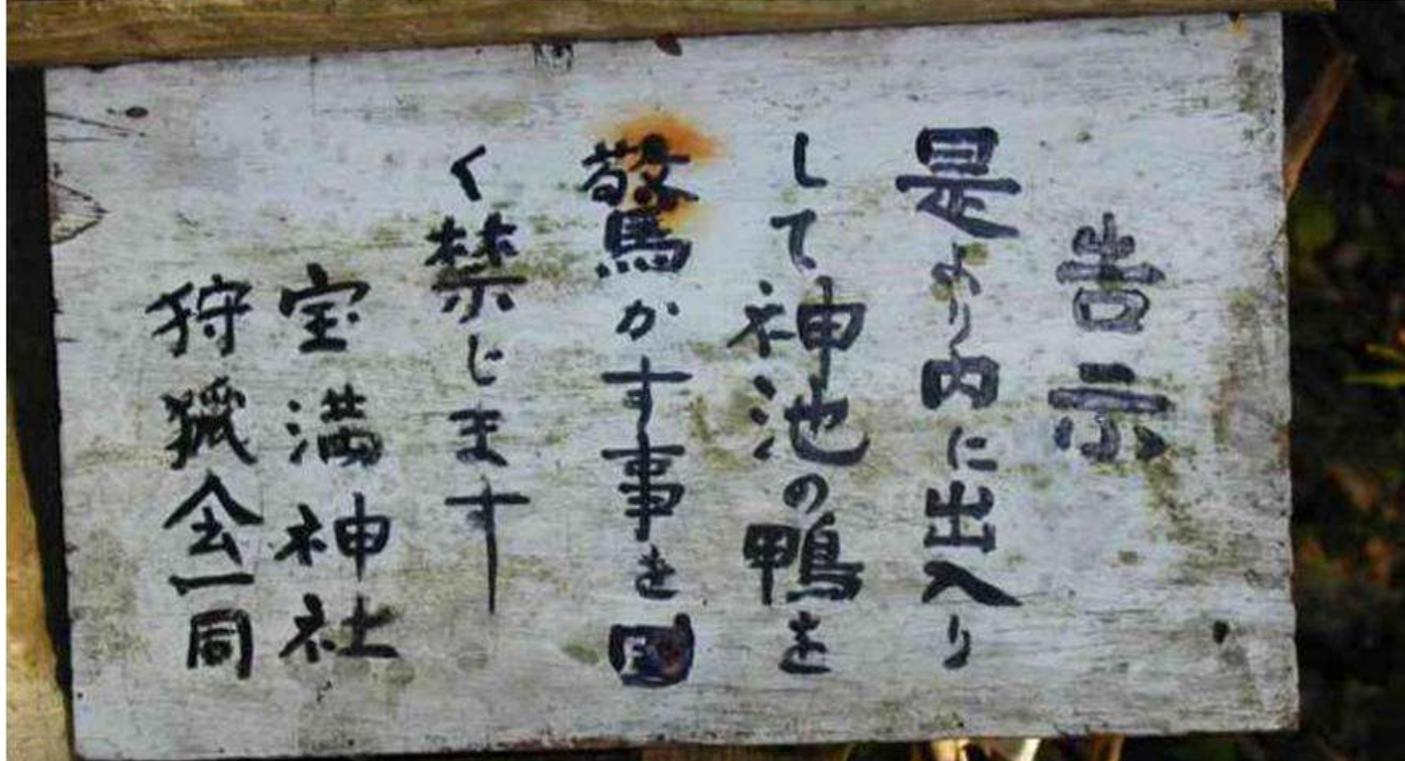
奄美・カミガミの植民地 宗教史の地層をさぐる巡礼の旅

安溪遊地・安溪貴子（列島プロ奄美沖縄
班）

陳泌秀（ソウル大・景観の形成史プロ）

2009年9月

環境を「協治（統治＋自治）」*するカミと人（聖と
俗）



*環境ガバナンスの意味

1477年の与那国島に見る聖と俗の ガバナンスの祖型

濟州島漂流民は、5ヵ月の滞在経験から
「その俗酋長なし」と語った（『朝鮮王朝実録』
成宗実録105）が、島の伝承によればその時、

村人が靈的な指示をあおぐ
ムトウかハマイ（本司ハマイ）と
村人に助言と指示をあたえる役割の
ムラヌウヤ（村の親）

という二人の女性がいた。（与那国島N子さんの³伝承）

大島巡礼（2009年8月29日～9月2日）



奄美市大熊で教会型のお墓に注目する

0. 奄美の基本：自然がカミ

日本の神道経由ではなく、一神教や科学技術真理教にさらされない人間がもっていた、生きるための基本ではないか。クリスマスツリーに、ヨーロッパの樹木信仰が生きているように。

（安部浩さんからの質問に答えて）

霊水チボリ水を味わう（「自己責任」で）



奄美市大熊にて

「月・日・海・山・水・作物・火。

これ以上の神はない。人間は自然について行かんば生きられん」ユタ神の阿世知照信さんの言葉

徳之島

ソテツのある風光もカミガミの世界

与路島



航海の難所は祈りの対象になる



大島北部の今井岬

1. 古琉球の時代のノロ信仰

琉球国王から任命される「ノロ」信仰は、1609年以降の薩摩支配時代にかからの権威付けを失い、明治始めの廃仏毀釈で弾圧を受け、高度経済成長と過疎によって現在は消滅寸前。

沖縄でさかんな媽祖や土帝君などの中国系の信仰は奄美では希薄である。

国指定無形文化財奄美市秋名の平瀬マンカイ

ノロ（左）とグジ（右）



しめ縄は、昭和35、6年のテレビ撮影の時の追加物（重田自蔵氏談）。
写真「vagabond の徒然なるままにinネリヤカナヤ」ホームページから

ノロ信仰のアシャゲは随所にある



加計呂麻島阿多地

2. 聖地が「神社」になる

岬や泉や森といった、古くからの聖地
が、後に「神社」の場所として選ばれる。
新しい「地層」が覆っていても、その下
に古い層が埋もれている。その「露頭」
を探し当てたい。

奉納する石が航海安全を守る



「海上保険みたいに1個
ずつ石を積んでもって
きたのよ」（阿世知照信）

今井権現の石段及び石碑

指定年月日 平成4年3月10日
所在地 安木屋場字大谷

◎ 石 段

元禄5年申（1692）為寿上国（与人として上国）石の小座一基と
石段用の石を持ち帰り、今井権現に寄進。（石段153段、石数628個、現存）
石質は河頭石、一部に山川石が用いられている。

◎ 石 碑

享保11年丙年（1726）9月3日、當島代官職、今井六右衛門、
寄進。

龍郷町教育委員会

阿世知照信さんは今井権現の宮司である



豊饒萬民快樂也の祈願
念し乎家時代の願に墨を
九日神社祭後各部落で
に同願踊り榊穂がなし来
せ参錢餅まれば赤やとて



奄美市笠利 今井権現にて

秋葉権現は火伏の神（加計呂麻島 西阿室）

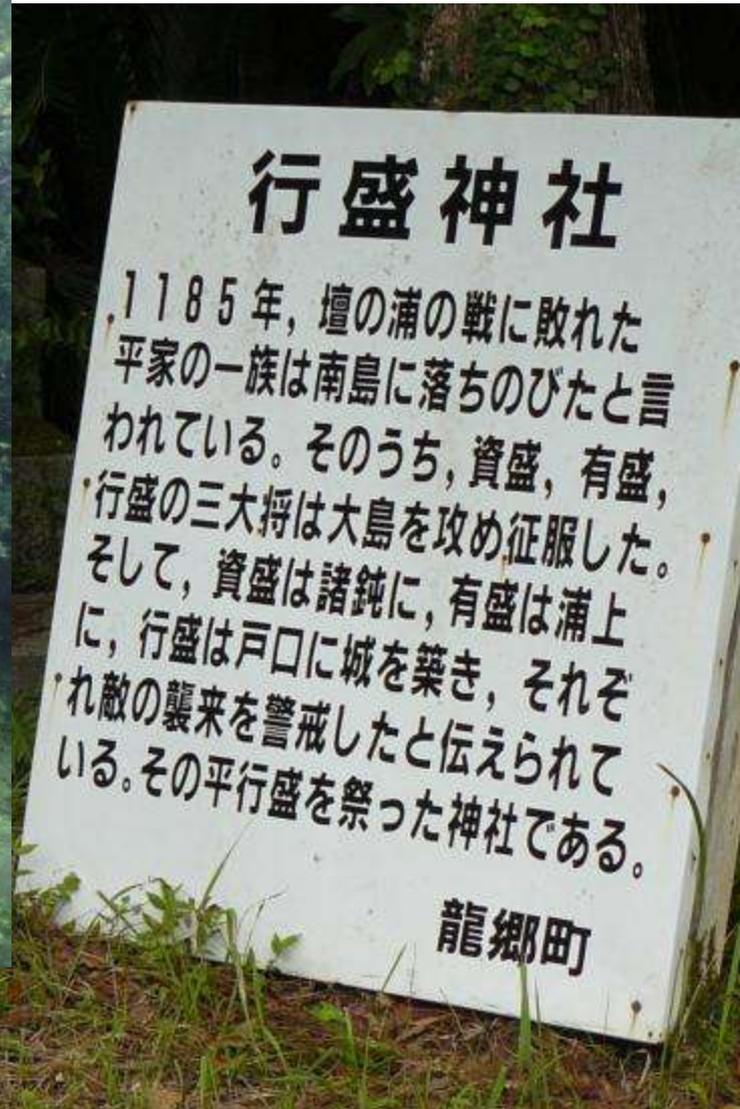


3. 貴人伝説の神社

平家落人伝説の行盛神社（創建は薩摩時代）



龍郷町戸口



龍郷町

源為朝の子 実久三次郎神社



加計呂麻島
実久

平家を祀ったのは、元禄時代（1688-1704）。平家の時代よりもずっと後に薩摩がもってきて拝ませた。

「人を殺した武將を拝む神社」を
拝めば結局は人を殺すことになる。

（阿世知照信さんの言葉）

4. 明治になると神社の創建 やカミガミの衣替えが進む

皇民化への道

大和村ひらとみ祭 を訪ねる（8月29 日）



開饒（ひらとみ）神社で安全祈願がされていた

奄美の糖業の元祖・直（なおし）川智を祀った神社、明治十五年創建。

四百年前という、その事跡が黒糖生産の強制への奄美側の反発を少なくするための薩摩藩の創作ではないかという説もある。



古いカミの衣装替え 石神から菅原道真へ



菅原神社

藩政時代の石神信仰が明治3年の
廃仏棄釈により廃止され、花徳の林貞起
が菅原道真公の神霊をお供して祭り菅原
神社と改称して以来、島内の高校や大学
の受験の合格を祈願し参拝するほか春
秋の彼岸に氏神として村人が祭る。

祭神 菅原道真公

祭日 春秋彼岸の中日

徳之島町教育委員会

古いカミの衣装替え 山間権現



- ・ 海賊の見張り所
- ・ 平家の岬の番所
- ・ 出征兵士の祈願
- ・ 疫病天災除け祈願

5. 新しいカミガミ続々到着

カトリックは明治から受容

大和村大和浜ひらとみ神社向かい



隣り合って並び立つ教会と神社



奄美市芦花部

新宗教「おほもと」の奄美進出は大正始め

出口和仁三郎聖師に心酔した西田静馬（西阿室）が先駆



瀬戸内町古仁屋

御真影・教育勅語・奉安殿



皇民教育のため昭和13年に建てられた。



GHQ指令にも撤去されずに残った



加計呂麻島に多く残る奉安殿



昭和10年創建。薩川小学校校庭

6. 今も生まれる聖地と神社

多様なカミガミを受け入れ続ける
心性は、いまも続いている

徳之島の闘牛神社（平成15年建立）



パンプローナの牛追い祭の熱狂を思い出す



全国闘牛サミット植之野大会
平成十四年十月六日伊藤観光トームに於いて
対風神大王号（タイム七分五十秒）
横綱福田喜和道一号
平成十五年一月三日松原闘牛場に於いて
対風神大王号とかげもとし（タイム八分五十五秒）
平成十五年四月吉日
福田喜和道
八十八才

西筑家

闘牛資料館と創健者の墓所を併設



徳之島町南原海岸

原野農芸博物館入り口のFRP船



奄美では、中国系を除き
沖縄と比べて多様なカミガミが
現在も同じ場所に共存し、
それぞれの歴史の中で果たした
ガバナンスの役割を終えても
しつこく存続している。
その理由を
考えてみたいものです。

とりあえずここでおしまいです



おまけ：エジンバラ公の「御真影」を崇めるヴァヌアツ・タンナ島の島民たち



右端の写真は島から贈られた竹槍をもつ殿下。この写真を見せただけで一九八〇年の「タフエア国」独立をめざす反乱は鎮圧された。